

## (2) 調査方法

本調査では、まずは北方領土隣接地域内の主な観光・学習施設において、どのようなプログラムが提供されているのか文献調査を通じて整理し、北方領土問題と連携可能な学習テーマの内容、方向性について検討を行った。

調査は、文献調査で概要を把握するとともに、詳細な実態については関係団体に電話ヒアリング、アンケート等により直接情報収集を行った。

なお、修学旅行は「観る」から「体験する」が主流になってきていることから、域内に数多く存在する地域資源、観光施設の中でも、本調査では、特に参加・体験型学習が可能なもの（「観光・学習施設」）について整理した。

### <文献調査の分析手法>

文 献 調 査	<参考文献> * 社団法人北海道観光振興機構「北海道教育旅行ガイドブック」 * 北海道宝島旅行社 北海道.com ウェブサイト * 北海道庁「ほっかいどう体験型観光ガイド」 * 北海道根室振興局ウェブサイト、各市町村観光協会 * 財団法人北海道環境財団「北海道の環境学習・教育施設データベース」 * 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構ウェブサイト / 等
------------------	--

## (3) 調査結果

### ① 北方領土隣接地域の観光・学習施設における参加・体験型学習プログラムの内容、規模

#### ◇ 【提供可能なプログラムの内容】北方領土隣接地域内の4つの学習テーマ

- ・ 北方領土隣接地域に立地する観光・学習施設において提供されている参加・体験型学習プログラムは、大きく「環境学習・自然体験」「農林漁業・食体験」「平和学習」「歴史・文化学習」の4つに分類することができる。なお、各分野の施設・資源、施設が提供する学習テーマの特徴は以下のとおりである。

#### ■ 環境・自然分野

北方領土隣接地域には、羅臼町の知床国立公園や、春国岱や野付半島などの豊富な自然資源があり、それらを活用した野生植物・動物の観察や、自然散策などを通じた環境学習プログラムが提供されている。そのほか、海を活用したウォーターレジャーやホエールウォッチング、草原を活用した乗馬体験などが提供されている。

#### ■ 農林漁業・食分野

北方領土隣接地域には、農場や漁場、乳製品や肉の加工場などがあり、それらを活用した「酪農業体験」、「漁業体験」、「料理体験」、「食品加工体験」などの農林漁業分野の産業体験プログラムが提供されている。

## ■ 平和分野

北方領土隣接地域が抱える固有の問題に関連し、北方領土問題の啓発施設が立地しており、それらを活用した北方領土問題に関する資料展示、平和教育に関連した学習プログラムが提供されている。

## ■ 歴史・文化分野

1市4町にはそれぞれ郷土資料館があり、開拓史や地域文化の学習機会が提供されている。

このように、北方領土隣接地域には、北方領土問題以外にも、「環境・自然」、「農林漁業・食」、「歴史・文化」に関する学習テーマを提供する観光・学習施設が立地している。また、その中でも「環境・自然」、「農林漁業・食分野」においては、多くの参加・体験型の学習プログラムが提供されていることは、一つの特徴とみなすことができる。

### ◇【提供可能なプログラムの規模】

- ・ 北方領土隣接地域には、大人数をまとめて受け入れられる参加・体験型学習プログラム（図表 IV-2 参照）が少なく、受入れ可能人数が把握できた参加・体験型プログラムのうち、100人以上が同時に参加できるプログラムは、全体の1割程度にとどまる。
- ・ 一方、「北方領土学習」、「クルージング」、「食体験」、「漁業体験」、「酪農体験」などの12のプログラムで、100人以上の受入が可能とされているが、北方領土問題の啓発施設（根室市内の2施設、標津町の1施設）については、施設全体（施設周辺等を含む）として受入規模は大きいものの、参加・体験型学習プログラムに一度に参加できる人数は限られている。

## ② 北方領土隣接地域の観光・学習施設における修学旅行の受入実績

### ◇【修学旅行の受入実績全般】約半数の施設に修学旅行の受入実績あり

- ・ 北方領土隣接地域内の観光・学習施設のうち約半数にあたる28施設（図表 IV-2）が修学旅行を受け入れた実績がある。

### ◇【参加・体験型学習プログラム別の受入実績】北方領土学習、乗馬、自然観察に関する施設で修学旅行の受入実績が多い

- ・ 「北方領土学習」、「乗馬」、「自然観察」の参加・体験型学習プログラムを実施する施設には、修学旅行で訪れる学校が比較的多く、これまで10件以上の累積受入実績を有する施設がみられる。このことから、これらの参加・体験型学習プログラムは、北方領土隣接地域の核となるものと考えられる。
- ・ 「北方領土学習」に関する参加・体験型学習を実施する施設には、毎年継続して来訪している学校が複数見受けられる。北海道立北方四島交流センターでは近年は毎年道外からの受入実績があり、直近の2009年には道外3校の修学旅行を受け入れている。同様に北方館・望郷の家も毎年道外からの受入実績があり、直近の2009年には道外6校からの受入実

績がある。

◇【受入実績と受入可能なプログラムの規模との関係】修学旅行の受入実績がある参加・体験型学習プログラムほど、受入可能な規模は大きい

- ・ 北方領土隣接地域における参加・体験型学習プログラムでは、大人数をまとめて受け入れることができるプログラムは必ずしも多くない。これに対して、修学旅行の受入実績を有する参加・体験型学習プログラムでは、1回当たりの受入可能人数が100名を超えるものが受入実績を把握できた施設全体の過半数を占めている。

◇【受入実績と情報発信との関係】資料提供を行った施設は一部にとどまる

- ・ 修学旅行では、施設への誘客を図るための広報用パンフレットに加え、学習という観点から、学校や旅行代理店に対する情報提供が求められることがある。しかし、修学旅行の受入実績を有する施設での参加・体験型学習プログラムのうち、学校等の依頼を受けて、事前・事後に学習の材料となる資料を作成・提供している施設は一部にとどまっている。